

《第 505 回(2023 年 9 月 14 日) 子どもの本の読書会記録》参加者:8 人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

『いのちの木のあるところ』

新藤 悦子/作, 佐竹 美保/絵 福音館書店

9月の読書会の課題図書は、『いのちの木のあるところ』でした。トルコの世界遺産である「ディヴリーの大モスクと治癒院」の建築をめぐる物語です。主人公の王女トゥーラーンが様々な人との縁をつなぎ、ときには悲しい出来事に見舞われながらも前に進んでいく姿と、その時代に生きた人々の様子が描かれています。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●本の厚さにしり込みした。実在するモスクの話だとは知らずに読み始めた。地理や人名が頭に入らなかったが、実在することがわかってから、どんどん話に引き込まれた。冠門の彫刻のところなど、挿し絵がすばらしかった。大モスクを見に行きたいと思った。

●もう少し掘り下げて書いて欲しかった。いろいろな人にスポットが当たっていて、誰が主人公なのかわかりにくかった。消化不良な感じ。トゥーラーンのことをもっと書いて欲しかった。製鉄もその後どうなったのか知りたかった。何年生を対象にした本なのかと思った。

●久しぶりに「物語」を読んだ気がした。地図を見ながら本を読むのが好き。トゥーラーンを中心としているが、ヤブラクがキーパーソンだと思う。ヤブラクの言葉がみんなに刺激を与える。遊牧民や様々な信仰を持つ人々がいて、異文化を尊重する物語。参考図書が掲載されているとよかった。

●大モスクと治癒院が主人公で、それを取り巻く物語だと思った。トゥーラーンのお父さんが持っていた刀や石工のフツレムシャーとフルシャードなど、いろんなことが継続されていく。この時代を感じることができた。子どもたちにとっては、こんな世界があると知って、その先を調べることができる本だと思う。

●当時のことが分かる資料を集めて、パズルを組み合わせて作り上げているような、よくできた物語だと思う。その地に残っている伝承なども参考になっているのかも入れない。登場人物のキャラクターや関係性、モチーフがよい。文様や挿し絵がすばらしい。本好きの子どもに薦めたい。

●トゥーラーンは無邪気で無神経なところもあるが、それが行動力につながっている。暗い場面にも救いがあった。子どもの本はこうであって欲しい。次に進むことができる。史実を伝えることも大事だが、その当時の人たちの思いを伝えていくことはとても大切だと思った。読後感がよかった。

●挿し絵と語り口がとてもよくて、ヤイラでは風が感じられるようだった。フルシャードもヤブラクも戦争で家族を失うが、ひとりではない。石を彫ったり、じゅうたんを織ったりして手を動かしているうちに前を向くことができた。ヤブラクのばばさまの「だいじなのは楽しく織ること」という言葉が心に残った。

●まずディヴリーの大モスクと治癒院を調べて、現存することに魅了された。深い心理描写がなく物足りないような気もするが、楽しく読んだ。ディヴリーの「人が財産」という考え方がよい。知見を広げること、異文化を知ることは現代でも大切なこと。戦いで家族を亡くし街から逃れる姿が今の世界情勢と重なった。

次回 10月12日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『みんなえがおになれますように ちがうってすてきなこと』うい/作, 早川 世詩男/絵, 松中 権/監修 学研プラス